

平和・人権
社会・宗教
政治と暮らし
分かち合い

共に生きる

No.74

発行/〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10 / 瀬下幸弘 FAX093-622-1290

しわす
師走
12
2016

心に響く映像ご紹介 (2分30秒の感動)

※2p詳細

憎しみからは平和は生まれません
共に歩み寄り
お互いに笑顔でいられる
そんな未来を一緒に作りませんか
フリーハガー 桑原功一

韓国人が反韓デモで フリーハグを試みた



写真はネット掲載から拝借

現職自衛官の母が、

「自衛隊の南スーダンPKO
(国連平和維持活動)への派遣は
憲法違反」だと

札幌地裁に提訴 11月30日

彼女は街頭などで「自分の子も、誰
の子も死なせたくない」と訴えてい
ました。

臨時国会の会期延長で安倍政権が狙うもの



国民の反対を押し切つてまで
「年金カット法案」等を強行するのか

次期アメリカ大統領のトランプ氏は11月21日、ビデオメッセージを公表し、「TPPからの離脱の通知を出すつもりだ」とTPPについて言及しました。また、自民党の農林部会長・小泉進次郎氏は「今、TPPが事実上消えた。米国が入る形では消えた」と述べ、TPPの発効が不可能になったとの見通しを示したことが報じられています。ところが政府はTPP承認案、年金カット法案(国民年金法等改定案)等を会期延長してでも成立させようとしているのです。その年金カット法案は「賃金が下がれば物価が上がっても年金支給額を下げる」内容で、高齢者だけでなく、将来年金を受給する世代の人生設計に大きな影響を与えてしまいます。国民の年金支給の仕組みを変えようというのですから慎重に審議すべきなのに、「法案を通過させるため」に臨時国会の会期延長を決定したとしか思えません。昨年の「戦争法案」の強行採決と同じ手法です。安倍政府は「社会保障のため」といつつ消費増税をしながら、年金・医療・介護・生活保護や母子加算の見直しなどの社会保障を切り捨てようとする一方、原発事故の賠償等は国民にその費用をまわそうとしたり、巨大企業や銀行・原発関連企業からの政治献金を平然と受け取っています。このような政治倫理も政治家としての資質もない自民党「安倍政治」は、一刻も早く良識ある国民の連帯で終息させねばなりません。

12月の講演・集会他案内

- ◆12月3日(土)下関アムネスティ(市民活動センター)…13時
危機的状況の人を救済するはがき書きライティングマラソン
・(同場所)北九州関門宗教者平和懇談会14回…16時
- ◆12月8日(木)太平洋戦争開始75周年
- ◆12月23日(金)JR黒崎駅前街頭宣伝(八幡西区革新懇)
戦争法廃止の呼びかけ…18時~19時

全国統一署名にご協力を
沖縄県民の民意尊重と、基地の押し付け
撤回を求めます。(基地のない沖縄をめざす宗教者の集い)

世界人権宣言(谷川俊太郎訳)

第23条 安心して働けるように

人には、仕事を自由に選んで働く権利があり、同じ働きに対しては、同じお金をもらう権利があります。そのお金はちゃんと生活できるものでなければなりません。人はみな、仕事を失わないよう守られ、だれにも仲間と集って組合をつくる権利があります。

12月11日(日):イチイチ祈りの会

場所は黒崎教会小聖堂、ミサ後~
どなたでもお出でください。

【映像紹介】

韓国人が反韓デモでフリーハグを試みた(大阪)

『私は韓国人です。
今日、隣の通りでは
ヘイトデモが行われています...
でも、私はあなたを信じます。
一緒にハグしませんか?』

「キリスト者・九条の会」北九州の会員からの紹介です。
「こんなビデオがありますので、紹介します。
先入観なしで見て下さい。」

下記アドレスで映像が見られます。

한국인이 반한시위현장에서 프리히그를 해보았다

<https://www.youtube.com/watch?v=Ob6QediH92w&feature=youtu.be>

在日韓国人などに対し、「韓国人は出ていけ」「いい朝鮮人も悪い朝鮮人も皆殺しにしろ」などの悪態を声だかに叫び、国民の不安と恐怖心をあおっています。ヘイトスピーチがなぜはびこってしまったのか、そこには安倍政権と極右勢力が「癒着」していることにつきます。特に日本軍「慰安婦」問題で安倍首相は河野談話を無力化しようとしていることです。この背景に「過去の日本の侵略戦争と植民地支配を正当化」しようとする企みがあります。歴史の偽造、ねつ造は戦争への道です。「共に生きる」紙は差別や偏見を助長する動きに断固反対します。編集部

日本語で書かれたこんなポードを立て掛けて、韓国人女性が大阪の路上に目隠しをして立ちました。



※写真は映像から
韓国人女性(上) ヘイトデモの団体(下)



日本漫画家協会
日本漫画家会議



にしやま すすむ
西山 進

わたしの体験

被爆と戦後

【3】

7月31日(日) 健和会上津役診療所にて

彼のお母さんはダンスの下敷きになって死んでいました。そのお母さんをかかえ出して道ばたで焼いたのです。今では考えられませんね。17歳の少年が道ばたで人間を焼いているわけですから。彼の名前は忘れません。よほど印象に残っていたのでしょう。後年、私はRKBの取材を受けるため長崎にいったとき彼の消息を尋ねたら癌で亡くなっていました。早死にしたそうです。そういう状況をときの本営発表は「8月9日、長崎にアメリカのB29が新型爆弾を投下せり。わが方の損害は軽微、ただいま調査中である」。7万人が死んで「わが方の損害は軽微」だなんて、うそを並べて隠すわけです。

戦後、造船所を辞めて大分の実家に帰りました。継母でした。私は原爆症が出て働けない状態でした。お継母さんは「こんやつは長崎に行って怠けもんになって帰ってきた。飯は食わせん。」と言い下宿人と同じようでしたので私はそこを出ました。九州一円をまわり、最初に入ったのが佐世保の大島炭鉱でした。落盤事故があり、3日で辞め、筑豊に入りました。古河目尾炭鉱ふるかわめいのお。ところが原爆症が出ているものですから突然欠勤するので。無断欠勤を7回して解雇され、大正鉱業(中間市)の工作課に入りました。そこで出会った人が(次号)

家族を失った被爆者は本当に悲惨ですね。私は単身赴任でしたが、そこに住んでいる長崎の人たちにとってはひどいものだったと思います。もしここに10万人の被爆者がいたら10万通りの被爆体験があるわけです。私の被爆体験は被爆の全体ではありません。1つ1つの体験が積み重なって全体の被爆の実像が見えてくるわけです。後にエフコープ(生協)が「伝えて下さい。あしたへ」という被爆体験集を出しました。22年間続いています。その中に被爆の実像が見えます。このエフコープ(生協)の聞き取りは歴史的にすごいことだと思います。

(原爆の翌日)三菱兵器製作所に着きましたが、もう手のつけようがありません。その後も爆心地に何回も入りましたので大分放射能を浴びているわけです。先輩の母親が見つからないというので手伝いました。見つからないわけです。元あった家がそのまま10メートル以上も吹っ飛んでいるのですから。やっと見つけたのですが

11月11日 日本カトリック司教団がメッセージ発表

地球という共通の家に暮らすすべての人へ原子力発電の撤廃を

—福島原子力発電所事故から5年半後の日本カトリック教会からの提言—

一国の司教団が、世界に向けてメッセージを発するのはきわめて異例のことかもしれません。しかし、福島原発事故から5年半が経過し、日本がこのような事態に陥ってしまった中で日本司教団は、原子力発電の危険を世界のすべての人に知らせ、その撤廃を呼びかけるほかはないと考えるに至ったのです。（「はじめに」より）

日本語：<http://www.cbcj.catholic.jp/jpn/doc/cbcj/161111.htm>

韓国語：<http://www.cbcj.catholic.jp/jpn/doc/cbcj/161111k.pdf>

英語・ドイツ語にも
訳されています。

◎各国語版を準備中です

虹の会

分かち合いのひととき

11月27日 13名参加

次回2017年1月22日ミサ後。
どなたでもご参加ください。

「核エネルギーと原発は、・・人間観と世界観にさまざまなゆがみをもたらします。人間中心の科学技術至上主義は、隣人・社会・自然を利己的な目的達成のための手段としか見ず、使い捨てと消費主義、弱者を支配する分断と不平等をもたらします。」（「今こそ原発の廃止を」より）

11月11日日本カトリック司教団メッセージ（「原子力発電の撤廃を」—福島原子力発電所事故から5年半後の日本カトリック教会からの提言—）が発表されました。それに伴い発行された「今こそ原発の廃止を」をもとに分かち合いました。「チェリノプイリの原発事故を通して気付かなかった生命の大切さに福島原発事故を通

して切実に感じた。」「今、一人ひとりの生き方が問われると思う。神の望みを生きているだろうか?」「自分にできることを見つけて実行したい。」「格差社会に生きている今、価値観の転換が必要。」などが分かち合われ、待降節の始まりに当たって、有意義なひと時を過ごすことが出来ました。

《アムネスティ》下関通信 (2016/12)



師走です。アムネスティの最新ニュースです(11/24)。「ナイジェリア、ラゴス州で大放火事件。類焼で3万人が焼き出された。州の違法住宅撤収計画に裁判所が停止命令を出していたにも関わらず、州当局はこれを強行した形。州は早急に代替家屋を提供しなければならない」。

もうひとつ待っていたニュース「シエラレオネの少女たち」も入りました(11/22)。この少女たちのことは5月号でもお知らせしましたが、9割が絶命するというエボラ熱危機の折、学校閉鎖中に性暴力多発、開校後も妊娠した少女らを通学禁止にして教育の機会を与えなかった件です。その後大統領は代替教育を受けさせる制度を設置したものの、他生徒とは異なる建物や、異なる時間帯、受験もさせず、教育の平等は提供されていないとのこと。国民の72%が極貧の



中にあり普通の学級に戻る学費もないとのこと。アムネスティはこの屈辱的な少女たちの汚名を撲滅することや、国際的義務に従い平等な教育を与える政府の方針を、と政府に求め続けています。しかしニュースの文末は【このアクションは終了しました】との結語。少女たちの行末を祈らずにはおれません。

こうして毎年年末に行われるアムネスティ「ライティングマラソン」の重要性に思いを馳せることとなります。世界中の危機にある人（原則として政府と異なる意見のため囚われ、拷問、死刑などの危機的状況者）を救済するためにその政府筋にはがき書きをします（昨年は375万通）。今年の対象は12名です。どうぞご参加下さい。（下関会場。12/3(土) PM1時～3時30分、市民活動センターホール。ハガキ、筆記用具用意あり）。

(2016.11.25 アムネ下関、山県)



原発はこわい

私たちは、1978年3月28日のスリーマイルアイランド (TMI) 原子力発電所事故 (米国)、1986年4月26日のチェルノブイリ原子力発電所事故 (旧ソ連)、2011年3月11日の東京電力福島第一原子力発電所事故を経験しました。そして、それらの事故の経験から、原子力発電には危険性があるものであることを知りました。加えて、原子力発電には、まだ、安全性を確保し、維持できるまでの科学的・技術的力量を持つに至っていない事実を確認しました。したがって、原子力発電の危険性を知って、技術の未熟性を知って、現在存在する原発施設の安全性をいかに確保してそれを続けていくのか、それとも廃止するのが、いま、私たち日本人にとっての重要な課題であります。

日本の原子力発電は、ほとんどが軽水炉によるものであります。

この軽水炉の仕組みは、運転中はもとより、運転停止のときも、運転停止後であっても、常に大量の水で冷やし続けることによって、安全を保つことができるという性質をもったものであります。水がなくなると「炉心溶融」という事態が発生します。そして、原発はどんな原子炉も莫大な「死の灰」を生み出すものであります。この「死の灰」は目に見えないもので、色もなく、臭いもないものであるため、私たちには被曝する前にそれから身を護ることのできないものであります。しかし、「死の灰」をつくらない原発というものはどこにも存在しないのであります。現在、世界の中で実用化されている原子炉は、すべてウランウムやプルトニウムを燃料に使っておりますが、これらの燃料を使って核エネルギーを取り出そうとしますと、莫大な「死の灰」が生まれることは自然科学の法則であります。

しかも、その**「死の灰」が生み出されると現在の人類にはそれを消す方法を持っていませんし、コントロールする方法さえも持ってはいないので、死の灰の危険がなくなるまでの約100万年以上もの間、『ただ閉じ込めておく』負担を負わされ続ける**のであります。事故が発生して、放射性物質が外部に放出されてしまうと、もはやそれを完全に抑える手段は現在の世界には存在しないのです。このような原発の「異質の危険」は「軽水炉」の原子力発電だけではないのです。ウランウムやプルトニウムを燃料として使う原子炉は、どんな型のもの

であっても、莫大な「死の灰」を生成するのであり、その発生を避けることのできる原子炉は現在の世界には存在しないのです。

次に、このような「異質の危険」をもっている原子力発電所というものの概要を具体的に見てみたいと思います。

いまや発電用の原子炉は時代の流れと企業の利益追求によって大型化し、日本において一般的に使用されているのは、電気出力100万キロワット級の軽水炉であります。この原子炉はどれ位の大きさがあるのかといえますと、沸騰水型と加圧水型ではやや差がありますが、原子力発電所は原子力本体が収まっている原子炉建屋、発電機の置かれているタービン建屋と補助建屋にコントロール建屋などによって構成されております。そして、敷地面積は約1万から2万平方メートルに達するといわれております。原子炉建屋は建物の高さが約80メートルほどのもので、その中に原子炉格納容器が納まっているのです。格納容器は、原子炉の放射性物質が仮に漏れるような事態になっても外部に漏れ出さないようにとの配慮から閉じ込める機密性の高い容器で作られており、沸騰水型の場合には厚さ3センチメートルほどの鋼鉄板でできております。核分裂反応が起きる原子炉そのものは、格納容器のほぼ中央に円筒形の原子炉圧力容器の中に納まって据え付けられています。圧力容器は原子炉そのもので、その中に核燃料や核分裂反応を制御するための制御棒などの重要機器が入れているのです。2011年3月11日に事故を起こした福島第二原子力発電所2号機 (電気出力110万キロワット) の場合には、圧力容器が高さ約22メートル、内径約6.4メートル、肉厚約16センチメートルの「低合金鋼」と呼ばれる特殊鋼でできているといわれております。加圧水型の場合には沸騰水型に比べると圧力容器はコンパクトになっており、例えば関西電力大飯発電所3号機 (電気出力118万キロワット) の場合で圧力容器が高さ約13メートル、内径約4.4メートル、肉厚約22センチメートルといわれております。原子炉の運転時の圧力は沸騰水型で約70気圧といわれており、これに対して加圧水型約160気圧とされております。そして、運転中の炉内の温度は沸騰水型が280から290度で、加圧水型が290から330度といわれており、加圧水型の方がたかいのであります。このため加圧水の方が、圧力容器に丈夫さ・強力が求められているのです。

この圧力容器内で生まれた高熱を、冷却材の水、沸騰水型の場合には高圧の水蒸気で、炉外に運び出すために圧力容器にはこれら冷却水を運び循環するための

配管が何本もつながられているのです。そのため、つなげられた配管との関係で危険性をもっているのです。炉心の燃料は、沸騰水型と加圧水型ではその形状などに差がありますが、燃料棒を何本も束ねた燃料集合体の形で収まっております。

この燃料体はメルトダウン事故などの発生の危険性をもっているものであります。すなわち、**冷却水の流れがうまく流れないと原子炉の温度がどんどん上昇して、やがては原子炉の空焚きとなり炉心溶融となる**のです。

福島第一原発の「過酷事故」のとき、1号機から3号機は自動停止、同時に「冷却システム」が機能停止しました。その後、地震により、送電塔・送電線の倒壊、外部からの電源途絶、緊急炉心冷却装置の配管・機器などの原子炉関係機器の破壊が発生しました。その上に、津波に襲われ、非常用電機が動かなくなりました。そして、最終的に全交流電源が喪失し、冷却システム停止となりました。そして、冷却システム停止の結果、第一原発の1号から3号機は同じ運命をたどったのであります。1号機は、燃料露出開始（11日午後5時）、燃料溶解・崩壊（メルトダウン・11日午後8時）、圧力容器のガス抜き（ベント・12日午前10時17分）水素爆発（15時36分）、建屋上部破砕。2号機と3号機も1号機と同様の結果をたどり、2号機は14日の午後11時にメルトダウン、15日午前6時10分に水素爆発して圧力抑制室破損となりました。3号機は14日午前11時にメルトダウン、午後10時建屋上部破砕になりました。4号機は当時定期点検中で運転停止中でしたが、15日の早朝に水素爆発で建屋の壁が破壊したのです。

加圧水型炉は、沸騰水型と違って一次冷却水系の熱を二次冷却水系に伝える蒸気発生器を備えているのです。標準的な蒸気発生器は高さが20メートル・直径4.5メートルもあり、その中に太さ2センチメートル余りの電熱細管が3000本以上も納まっており、一次系から二次系に熱を伝えて二次系の水を沸騰させるのです。原子炉をめぐる冷却水を動かすポンプが加圧水型

では圧力容器の外に設置されているのに対して、沸騰水型では炉心の水の流れを良くするために外部に設置されているポンプの外に「ジェットポンプ」と呼ばれる装置が圧力容器の中に収められているのです。そして、燃料の燃焼状況を制御したり、炉をコントロールして緊急停止したりするための制御棒は、加圧水型では上から燃料集合体の間に降ろす方式が採られているのに対して、沸騰水型では炉の上部構造の関係でそのスペースが取れないという事情から下から上へ挿入する方式を採っているのであります。制御棒は、原子炉の中の中性子の数を常に一定に保つ役割を果たしているのです。原子炉の中で核分裂を引き起こすのは中性子です。制御棒の働きにより中性子の数が一定しているならば問題がないのですが、中性子の数が多くなると核分裂をコントロールできなくなり、原子炉は過熱し暴走して事故が発生することになるのであります。福島原発事故では、地震によってこの制御棒が曲げられ、その機能を果たすことが不可能になるという事故が発生したのであります。

原子炉を構成するシステムは、原子炉本体や冷却系の他に、炉を運転するための制御系と電気を起こすためのタービン・発電機系、さらに安全のための系体などがあり、相当に複雑になっているのです。例えば、100万キロワット代の原子力発電所では平均して各種ポンプが360台、モーターが1300台、弁が3万台、計器類が1万個などと、膨大な数にのぼる部品類が使用されており、小さい物も含めて部品の総数が1000万個にも達するといわれております。したがって、人間によってこれらの機器の操作がされるというところから人工的事故の危険が常にあるのであります。しかも、冷却水などの大小配管が付着されており、それら配管の総延長が170キロメートル、配管に使用されている鋼材の重量が約1万トンにも達するとされております。したがって、原発ではこの配管事故の危険性が常に存在しているのであります。（続く）

鳥とぶつかりました（福岡 K）

読者レポート

クリスマスブーツが完成（沖縄 中）

初めての体験。スズメだったと思います。ドライブ中、右側の田んぼから50～60羽の小鳥が一斉に道路側へ飛び立ち対向車の間を通り抜けたと思ったら、ん？私の車の前を「ドン・ドン・ドン」・・・3羽くらいフロントガラスに激突です。かわいそうには思わず、そのまま現場を逃走しドライブを続けました。犯人は私です。※そういえば昨年、カラスが自動車の天井に「ドスン」。起き上がり、そのまま逃げました。謝りもせず。他のカラスに追われていたようです。「共に生きる」来年もよろしく。

手作りしたブーツで2人の子は大喜び。親の言うことを聞かないときは「サンタさんがプレゼントを持って来ないよ！」そしたら言うことを聞きます。安倍総理にも言いたいです。沖縄県民の言うことを聞かないとサンタさんが怒るよ!!



リレー『平和への手記』

「キリスト者・9条の会」の「9条守りたい。定例会(2016年5月28日)」

在日コリアン歴史・文化と平和の語り部



裴東録さん



姉のペー・トンソンさん

(在特会は) 2000年当時、市長も含め創意で作ったムグンファ堂を撤去しろと何癖をつけてきます。

血と汗で作ったムグンファ堂、ペ・レソンさんが私財をはたいて作ったムグンファ堂。右翼街宣車が20台位で街頭宣伝をし、大音響で叫びます。(これには) 飯塚市もビビります。このムグンファ堂を作るのに飯塚市も600万円出していますが、(在特会は)「それを返還しろ」と言います。恐ろしい世の中になってきましたね。筑豊に(朝鮮人)強制連行がなかったのでしょうか。強制連行があった現場なんです、筑豊は。日本会議とつながった飯塚市議が3人います。市議会の質問で「15万人はどこからの数字なのか、明らかにしろ。証拠を出せ」と詰め寄ったりします。市側は「いろんな関係書物で明らかになっていきます」と答えます。安倍首相が「慰安婦問題での強制は見つからなかった」などと発言していますから、戦後70年も経ってしまおうと生き証人が少なくなりそうです。「強制連行」日本軍『慰安婦』を否定してしまふ流れが出てきました。若い人たちは大事な歴史問題を勉強しないとわからなくなってしまう。私たちに権力も財力もありませんが、草の根の市民運動で真実をできる範囲で伝えられるようがんばっています。(ペーさんの姉、ペー・トンソンさんがここで一言、

「日本の学校では歴史の事実を何も教えないからね」

※この後、ペーさんは2007年の映像を私たちに見せました。

それは、日本で作った重さ1トンの石を関釜フェリーで運び韓国に運んだ記録映像です。ストーンウォークと言い「謝罪」というテーマで作られたその重い石を軽トラに任せ、45日間、韓国の村々を行進した記録です。現在その石は、在韓被爆者のいる福祉センター会館の入り口に置いてあるとのことでした。もう一つのDVDも見せてくれました。2015年5月にテレビ放映されたものです。

世界遺産に喜ぶ大牟田の地、そこに三井三池炭坑のかつての炭坑住宅の押し入れから見つかった「漢詩」が記されていました。その保存を求め、ペーさんたちは運動を展開。何千人もの署名が集ったにもかかわらず、会社側は「その社宅を壊すときは連絡します」と言っていたのに、連絡もせずに取り壊してしまつたのです。戦後復興や世界遺産を否定するのではない、ただ、負の歴史も伝えるべきではないかとペーさんたちの熱い思いが伝わる内容のテレビ報道でした。その「漢詩」は現在大牟田市に展示されているとのことでした。

【姉、ペー・トンソンさんの話】

私のオモニは何でも(挑戦)してみたいという性格でした。勉強して本が読めるような人になりました、という夢を持っていましたが、叶いませんでした。オモニが子ども頃、憲兵が村に来ると怖くて隠れる生活だったと言っていました。(そのオモニも)結果、日本に來、戦後も勉強したい、字が読めるとどんなによいかと…(次号)

編 集 後 記

毎月1回、JR黒崎駅前では戦争法廃止のための街頭宣伝をしています。「大学卒業と同時に多額の奨学金返済、まさに学生ローン。これじゃ結婚も出産もためらう。出産しても保育所に空きが無く『保活』に奔走。あげく『母子加算』の見直しまで行われようとしている。『経済的徴兵制』経済的困窮のため、自衛隊に入隊する青年がいる。こんな日本に誰がした。国の経済力が高なくても、国民の多くが幸せと感しているブータンと比較すれば、日本の若者たちは」……2017年を希望の年に。(瀬下)